琉球大学学術リポジトリ

沖縄県の高校生の飲酒に関する研究２
―飲酒の理由と飲酒形態との関連―

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 琉球大学法文学部
	公開日: 2008-10-21
	キーワード (Ja): 高校生の飲酒, 飲酒の理由, 飲酒の形態
	キーワード (En):
	作成者: 田中, 寛二, Tanaka, Kanji
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/7567

沖縄県の高校生の飲酒に関する研究 II
－飲酒の理由と飲酒形態との関連－

How do high school students drink alcohol ? (II)
: The relations between reasons of their dinking and their ways of drinking.

田 中 寛 二
(Kanji Tanaka)

The purpose of this paper is to clarify the relations between reasons of drinking alcohol and the ways of drinking for the education of high school students.

Although 631 high school students were served as the subjects in this study, the number of the subjects who were analized actually were 422.

By analyzing statistically,the main findings are as following:

1)*the reasons for drinking are different between Okinawan high school students and the students who live in Nagasaki.*

2)*the relatoins the reasons for drinking to the ways of the drinking are different between Okinawa and Nagasaki.*

Key words: 高校生の飲酒，飲酒の理由，飲酒の形態

Ⅰ．はじめに～背景と目的

未成年者が飲酒の上で無謀運転を行い，その結果の死傷事故は，今日の沖縄県の社会問題のひとつと指摘される。未成年者飲酒禁止法で未成年者の飲酒が明確に禁止され，また一般的な社会通念においても未成年者の飲酒は公には容認されていない。それにもかかわらず，未成年者の飲酒は半ば日常的であると指摘されることすらあるのは何故なのだろうか。とりわけ，沖縄県はそのような傾向が強いように思われる。

田中（1997）は，沖縄県の未成年者の健全育成の指導を行うために，高校生の飲酒の実態とその背景をとりあげ，調査研究を行っている。様々な結果の中でも，沖縄県の高校生が比較的「頻繁に」「深夜にまで至る」「居酒屋（などの保護領域外）」での飲酒を行っているという実態を，長崎県の高校生との比較を通して浮き彫りにしている。これらの飲酒形態は，沖縄県の高校生の飲酒の特徴と考えられる。

このような飲酒行動の実態は問題視されて然るべきである。しかし，これを改善するためには，このような飲酒の形態がどのような要因によって働いているのかを明らかにしなければならない。これらの背景要因を明らかにしなければ，実効ある対策を講じることは困難である。

そこで，飲酒の理由についてとり上げることにする。

ところで，飲酒には元来，神聖な儀式的な意味が含まれていたと解されるが，その他にも「社交」「ストレスの解消」あるいは「男らしさの誇示」などの意義を見出すこともできる（斎藤，柳田，島田，1979）。

飲酒の理由に関して桜井（1993）は，30項目からなる飲酒の理由尺度を翻訳し，日本人大学生を対象にして測定している。この尺度は６つの下位尺度から構成されていることが，因子分析など必要十分な統計的分析により確かめられている。それらの下位尺度は「ストレス解消」「いい気分」「酒好き」「健康」「大人らしく」「社交」である。田中はこの尺度を用いて，沖縄の高校生の飲酒の理由を調べている。その結果，「酒好き」「健康」「大人らしく」では長崎県の高校生の平均得点よりも沖縄県の高校生の方が有意に高いことが認められた。「ストレス解消」「いい気分」の両尺度で

は有意な差は認められなかった。同時に性差について検定しているが「大人らしく」では有意な差のある傾向が認められ，「社交」では性差が認められた。性差についてはさほど大きなものではなく，むしろ沖縄県の高校生の飲酒の理由が長崎県の高校生とはかなり異なっていることを示していると解される。これは単に平均値の比較であり，質的な分析にまでは踏み込んでいない。

先述のとおり，飲酒の形態には沖縄高校生にはかなり特徴的な傾向が認められる。このような傾向と，飲酒の理由との間には意味のある関連性が認められるのではあるまいか。例えば，ストレス解消のための飲酒は，攻撃性を発散し，酒量の多い，深夜にまで及ぶ可能性が高くなるのではないかと推測される。このように，飲酒の理由が異なれば，飲酒の仕方が違うことは容易に推察できる。しかし，両者間の関連性を扱った研究は見あたらない。そこで，本研究では，飲酒の理由と飲酒の仕方との間の関連性を明らかにすることを目的とする。特に飲酒の形態として，ここでは沖縄県の高校生の飲酒の特徴であると指摘された飲酒の頻度，飲酒の時間帯，飲酒の主な場所との関連を明らかにする。

Ⅱ．方法

以下基本的には田中（1997）と同一であり，その際に収集したデータを再度分析することにする。

1．調査対象者

表1に対象者を出身県別，性別に示す。沖縄県，長崎県ともに高校2年生と3年生に調査を依頼した。高校は，県立普通科高校と県立商業高校がランダムに選択された。年齢は，16歳から18歳である。

表1　調査対象者

	沖縄県	長崎県	計
男	113	133	246
女	224	161	385
計	337	294	631

今回の分析は，表２に示すような飲酒経験の有無に関する調査によって飲酒経験ありと回答した調査対象者のみを分析対象者とする。

表２　飲酒経験の有無

	有	無
沖縄県		
男	91	22
女	189	35
長崎県		
男	69	64
女	73	87

２．調査項目

１）飲酒の実態に関する項目

飲酒の実態に関して，「飲酒経験の有無」「飲酒の頻度」「飲酒の時間帯」「飲酒場所」「飲酒相手」などが質問された。質問項目は，中村ら（1993）及び石川県小松保健所（1995）が参考にされた。

２）飲酒の理由に関する項目

桜井（1993）の作成した飲酒の理由に関する尺度30項目及び飲酒しない理由に関する項目が調査項目とされた。

３）デモグラフィック項目

性別，年齢，出身県，高校名などに関する項目が用いられた。

３．調査実施方法

各学校の生徒指導担当の教諭かあるいは養護教諭によってクラス単位で一斉に実施された。

4．調査実施期間

調査は1995年10月から11月にかけて実施された。

Ⅲ．結果と考察

本研究では飲酒の理由として，桜井が項目分析を行っている飲酒の理由尺度30項目を使用した。この尺度は，因子分析の結果などから６つの下位尺度に分割できるとしている。本研究では桜井にしたがって，６つの下位尺度ごとに分析を行うことにする。なお，下位尺度は，前述のとおり，「ストレス解消」，「いい気分」，「酒好き」，「健康」，「大人らしく」，及び「社交」である。

1．飲酒の理由に関する下位尺度の分析

ここでは，飲酒理由を具体的に把握するために，桜井の分析を参考にし，６つの下位尺度ごとに，分析を行う。

分析は，全分析対象者を下位尺度ごとに平均値によって折半し，それぞれを高群，低群とし，沖縄県高校生と長崎県高校生の出現率を比較する。具体的には，２（沖縄県，長崎県）×２（高群，低群）のクロス表の各セルに出現する人数の比較を行う。出現頻度に統計的な違いがあるかどうかを検定するために，χ^2検定を行う。ここでは，この分析の結果統計的に有意な値が得られた下位尺度については，それが沖縄県の高校生と長崎県の高校生との飲酒の原因の違いを反映するものと考える。分析の結果，有意に高い（有意に高い傾向を含む）のχ^2値が得られた下位尺度を表３から表６に示す。

表３は，「ストレス解消」尺度についてまとめたものである。両県ともに約半数が低群，高群に出現しているが，沖縄県では低群に多く，長崎県では高群に多いことが示された（$\chi^2=3.56$，$df=1$，$p<.10$）。このことから，長崎県の高校生の方が，ストレス解消を理由として飲酒にいたる可能性が沖縄県よりも高いことが示された。逆説的に，沖縄県の高校生は長崎県の高校生よりもストレスの解消という理由ではあまり飲酒をしないこ

とが明らかになったと考えられる。

表3　「ストレス解消」尺度高低の県別出現頻度

	沖縄県	長崎県
低	147 (52.7)	61 (43.0)
高	132 (47.3)	81 (57.0)

(　)内は%

表4は「酒好き」尺度をまとめたものである。沖縄県の高校生は「酒好き」をより強く飲酒の理由としている比率が半数を超えているが，長崎県では「酒好き」を理由て飲酒に及ぶ比率は少ないことが示されている（$\chi^2=7.34$，df＝1，$p<.01$）。沖縄県の高校生の場合，飲酒が常習化する要因の一つと考えられる。

表4　「酒好き」尺度高低の県別出現頻度

	沖縄県	長崎県
低	132 (47.3)	87 (61.3)
高	147 (52.7)	55 (38.7)

(　)内は%

表5には，「健康」尺度についてまとめたものである。健康によいからという理由によって飲酒を行う者の比率は，沖縄県ではそれを強く意識して飲酒する者は半数を少し上回っているが，長崎県では逆に，6割の高校生が健康に良いという理由を強くは意識していないことが示されている。

酒は百薬の長と言われるが，摂取過多は逆に身体にかなりの悪影響を与えることは言うまでもない。「健康に良いから」という理由によって，たとえ無茶な飲酒であっても合理化の心理機制が働けば，一層高頻度，飲酒量過多の飲酒に傾倒する要因となる可能性がある。このように考えると，特に長崎県では、酒害教育を行う必要性があることがうかがえる。

表5 「健康」尺度高低の県別出現頻度

	沖縄県	長崎県
低	132 (47.3)	84 (59.2)
高	147 (52.7)	58 (40.8)

(　)内は%

「社交」尺度について同様にまとめたのが，表6である。表中に示されているとおり，沖縄県高校生の場合，約6割が「社交」を理由には飲酒していないが，長崎県高校生の場合は約6割が「社交」を理由として飲酒していることが分かる（$\chi 2 = 14.7, df = 1$，$p < .001$）。つまり，長崎県の高校生は，友人との関係を良好に保つために飲酒している比率が高いが，逆に沖縄県ではその比率が低いことが示された。

表6 「社交」尺度高低の県別出現頻度

	沖縄県	長崎県
低	167 (59.9)	57 (40.1)
高	112 (40.1)	85 (59.9)

(　)内は%

以上４つの下位尺度については，沖縄県の高校生であることと長崎県の高校生であることの違いと各下位尺度の得点の間に意味のある関連性のあることが示されたと考えられる。

長崎県の高校生の飲酒の理由との比較において，沖縄県の高校生は，ストレスを解消するためや社交の手段として飲酒するのではなく，酒自体が好きで酒が健康に良いからという理由から飲酒に至っている比率が高いことが示されたと考えられる。

なお，上記以外の２つの下位尺度「いい気分」と「大人らしく」については，同様の分析の結果，χ^2値は有意ではなかったので，以下の分析からは除外する。

２．飲酒理由と飲酒形態の関連性

飲酒形態として，田中（1997）が沖縄県の高校生の特徴として飲酒頻度，飲酒の時間帯，飲酒場所を指摘している。これらと上でみた飲酒の理由との間の関係を沖縄県と長崎県別に調べることで，沖縄県の高校生の飲酒の特徴について明らかにする。

１）飲酒理由の各下位尺度と飲酒頻度との関連性について

表７から表10までは飲酒理由の各下位尺度の高・低群と飲酒頻度の高・低群の２×２のクロス表を沖縄県と長崎県別に示したものである。飲酒頻度は「平均するとどのくらいの頻度でお酒を飲みますか」に対して，「ほとんど毎日」「２，３日に１回くらい」「１週間に１回くらい」と回答した場合を高とし，「１ヶ月に１回くらい」「２，３ヶ月に１回くらい」と回答した場合を低とした。

表７には，「ストレス解消」尺度と飲酒頻度の関連性を示したものである。県別にそれぞれχ^2検定を行ったところ，沖縄県では有意なχ^2値は得られなかった（$\chi^2=0.10$，df＝1，NS）が，長崎県ではその値は有意であった（$\chi^2=5.44$，df＝1，$P<.05$）。沖縄県の高校生ではストレス解消を理由としていようがしていまいが，飲酒頻度は高いが，長崎県の高校生

の場合は，ストレス解消を理由として飲酒する場合は頻度が高くなることが示されている。

表7 「ストレス解消」尺度高低と飲酒頻度

		ストレス解消尺度 高	ストレス解消尺度 低
沖縄県			
飲酒頻度	低	10 (4.7)	15 (7.1)
	高	81 (38.2)	106 (50.0)
長崎県			
飲酒頻度	低	13 (11.4)	19 (16.7)
	高	53 (46.5)	29 (25.4)

( )内は%

表8には，「酒好き」を理由として飲酒する程度と飲酒頻度の関連性を示したものである。県別にχ^2 検定を行ったところ，沖縄県では有意な傾向のχ^2値が得られた（$\chi^2=2.95$, df=1, P<.10)。また，長崎県の場合でも，有意なχ^2値が得られた（$\chi^2=5.25$, df=1, p<.05)

表8 「酒好き」尺度高低と飲酒頻度

		酒好き尺度 高	酒好き尺度 低
沖縄県			
飲酒頻度	低	8 (3.8)	17 (8.0)
	高	94 (44.3)	93 (43.9)
長崎県			
飲酒頻度	低	7 (6.1)	25 (21.9)
	高	37 (32.5)	45 (39.5)

( )内は%

表9では，同じく「健康」尺度と飲酒頻度の関連性を調べた。χ^2検定の結果，沖縄県では有意な傾向のχ^2値が得られ（$\chi^2=2.78$, df=1, p<.10)，長崎県では有意なχ^2値が得られた（$\chi^2=7.47$, df=1, p<.01)。

表9 「健康」尺度高低と飲酒頻度

		健康尺度 高	健康尺度 低
沖縄県			
飲酒頻度	低	8（3.8）	17（8.0）
	高	93（43.9）	94（44.3）
長崎県			
飲酒頻度	低	7（6.1）	25（21.9）
	高	41（36.0）	41（36.0）

（　）内は%

つまり，「酒好き」尺度と飲酒頻度の間の関係は両県の間で同様の傾向があることが示された。

表10では，同じく「社交」尺度と飲酒頻度の関連性を調べた。χ^2検定の結果，沖縄県でも（$\chi^2=0.39$，df＝1，NS），長崎県でも（$\chi^2=.01$，df＝1，NS）有意なχ^2値は得られなかった。

表10 「社交」尺度高低と飲酒頻度

		社交尺度 高	社交尺度 低
沖縄県			
飲酒頻度	低	10（4.7）	15（7.1）
	高	63（29.7）	124（58.5）
長崎県			
飲酒頻度	低	20（17.6）	12（10.5）
	高	52（45.6）	30（26.3）

（　）内は%

2）飲酒理由の各下位尺度と飲酒の時間帯との関連性について

表11はストレス解消尺度と飲酒時間帯の関連性を示したものである。県別のχ^2検定の結果，沖縄県では有意なχ^2値が算出された（$\chi^2=6.64$，df＝1，$P<.05$）。他方，長崎県では有意な傾向のχ^2値が得られた（χ^2

表11 「ストレス解消」尺度高低と飲酒の時間帯

		ストレス解消尺度 高	低
沖縄県			
時間帯	5～10時	37 (14.5)	25 (9.8)
	10時以降	79 (31.0)	114 (44.7)
長崎県			
時間帯	5～10時	46 (36.8)	29 (23.2)
	10時以降	23 (18.4)	27 (21.6)

(　)内は%

＝2.85, df＝1, P<.10)。しかし，その内容は，ほとんど正反対であり，長崎県の場合は，5～10時，沖縄県の場合は10時以降に飲酒している比率が高いことが特徴と思われる。

表12は酒好き尺度と飲酒時間帯の関連性を示したものである。県別のχ^2検定の結果，いずれも有意なχ^2値は算出されなかった。(沖縄県：χ^2＝0.37, df＝1, NS, 長崎県：χ^2＝1.30, df＝1, NS)。

表12 「酒好き」尺度高低と飲酒の時間帯

		酒好き尺度 高	低
沖縄県			
時間帯	5～10時	30 (11.8)	32 (12.5)
	10時以降	102 (40.0)	91 (35.7)
長崎県			
時間帯	5～10時	24 (19.2)	51 (40.3)
	10時以降	21 (16.8)	29 (23.2)

(　)内は%

表13は健康尺度と飲酒時間帯の関連性を示したものである。「酒好き」尺度と同様，県別のχ^2検定の結果，いずれも有意なχ^2値は算出されなかった。(沖縄県：χ^2＝0.98, df＝1, NS, 長崎県：χ^2＝0.09, df＝1, NS)。

表13 「健康」尺度高低と飲酒の時間帯

		健康尺度 高	健康尺度 低
沖縄県			
時間帯	5～10時	35（13.7）	27（10.6）
	10時以降	95（37.3）	98（38.4）
長崎県			
時間帯	5～10時	28（22.4）	47（37.6）
	10時以降	20（16.0）	30（24.0）

（　）内は%

表14は社交尺度と飲酒時間帯の関連性を示したものである。県別のχ^2検定の結果，沖縄県では有意なχ^2値が算出された（$\chi^2=6.40$, df=1, P<.05）。他方，長崎県では有意なχ^2値は得られなかった（$\chi^2=1.25$, df=1, NS）。

表14 「社交」尺度高低と飲酒の時間帯

		社交尺度 高	社交尺度 低
沖縄県			
時間帯	5～10時	32（12.5）	30（11.8）
	10時以降	65（25.5）	128（50.2）
長崎県			
時間帯	5～10時	48（38.4）	27（21.6）
	10時以降	27（21.6）	23（18.4）

（　）内は%

3）飲酒理由の各下位尺度と飲酒の場所との関連性について

ここでは飲酒の場所を採り上げる。飲酒の場所については，自宅と居酒屋等に分割した。飲酒の場所については，「お酒を飲む主な場所はどこですか」に対して「自宅」「親戚宅」「友人・知人宅」「大衆酒場（居酒屋な

ど)」「スナックやバー」の選択肢の中から，上位３つまでを答えるように指示した。したがって，表15～18は列計が重複されてカウントされている。このような場合の検定は困難であるので，今回は，各行の合計についての各比率を単純に比較することにする。

表15はストレス解消尺度と主な飲酒場所についての関係性を示したものである。沖縄県の高校生ではストレス解消を理由として飲酒してもそうでなくてもほぼ同率で居酒屋での飲酒が約65％を閉めている。しかし，長崎県ではストレス解消を理由として飲酒する場合は約85％が自宅で，ストレス解消をあまり強く意識しないで飲酒する場合でも，72％が自宅で飲酒していることが示された。

表15 「ストレス解消」尺度高低と主な飲酒場所

		ストレス解消尺度 高	ストレス解消尺度 低
沖縄県			
場所	自　宅	49 (35.3)	63 (34.4)
	居酒屋等	90 (64.8)	120 (65.6)
長崎県			
場所	自　宅	66 (84.6)	45 (72.6)
	居酒屋等	12 (15.4)	17 (24.4)

(　)内は県別の行計に対する％

表16では酒好き尺度と主な飲酒場所，表17では健康尺度との関係，表18では社交尺度との関係性について記述したものである。これらの表は数値に多少のばらつきはあるが，表15で述べた様な傾向と同様であると考えられる。特徴的なのは，表18の社交尺度と飲酒場所の関連性である。沖縄県の高校生が，社交を強く意識すると，比較的自宅での飲酒を行うようになるという点が特徴的である。

表16 「酒好き」尺度高低と主な飲酒場所

		酒好き尺度 高	酒好き尺度 低
沖縄県			
場所	自　宅	45（29.2）	67（39.9）
	居酒屋等	109（70.8）	101（60.1）
長崎県			
場所	自　宅	44（88.0）	67（74.4）
	居酒屋等	6（12.0）	23（25.6）

（　）内は県別の行計に対する％

表17 「健康」尺度高低と主な飲酒場所

		健康尺度 高	健康尺度 低
沖縄県			
場所	自　宅	44（30.1）	68（38.6）
	居酒屋等	102（69.9）	108（61.4）
長崎県			
場所	自　宅	46（85.2）	65（75.6）
	居酒屋等	8（14.8）	21（24.4）

（　）内は県別の行計に対する％

表18 「社交」尺度高低と主な飲酒場所

		社交尺度 高	社交尺度 低
沖縄県			
場所	自　宅	54（42.2）	58（29.9）
	居酒屋等	74（57.8）	136（70.1）
長崎県			
場所	自　宅	72（86.8）	39（68.4）
	居酒屋等	11（13.3）	18（31.6）

（　）内は県別の行計に対する％

Ⅳ．主な引用・参考文献

石川県小松保健所　1995　ライフステージ別飲酒実態調査報告書　石川県

國吉和子　1983　沖縄における飲酒の実態とアルコール関連問題－復帰後の統計の分析を中心に－　沖縄大学紀要第３号　99－114

國吉和子，名城嗣明，中村完，島袋恒男　1985　飲酒行動に関する心理学的研究－職業別分析を通して－　沖縄大学紀要第４号　51－86

中村完，國吉和子，島袋恒男，名城嗣明　1983　飲酒行動に関する心理学的研究　琉球大学法文学部紀要社会学篇　39－86

田中寛二　1997　沖縄県の高校生の飲酒に関する研究－長崎県との比較－　琉球大学法文学部紀要　ヒューマンサイエンス第３号　181－203

Rivers, P. C., 1994 Alcohol and human behavior.　Prentice Hall.

斎藤学，高木敏　1992　アルコール臨床ハンドブック　金剛出版

斎藤学，柳田知司，島田一男　1979　アルコール依存症　あなたの酒の飲み方は大丈夫か　有斐閣選書

桜井茂男　1993　大学生の飲酒とその理由に関する研究　日本心理学会第57回大会発表論文集　842

桜井茂男　1996　大学生における飲酒効果の個人差と飲酒量　日本心理学会第60回大会発表論文集　978